

花山青少年自然の家で外遊び！

新型コロナウイルスの感染拡大が収束の兆しを見せない中、子どもたちが外に出かけて体を動かす機会も少なくなっているのではないのでしょうか。

幼児期から小学校低学年にかけては、遊びを通じて楽しみながら体を動かすことが、とても大切な意味を持つ時期です。心の底から楽しいと感じて遊ぶことで、無意識のうちに多様な体の動き、他者とのふれあい、創意工夫が生まれます。それらが脳細胞に刺激を与え、知・徳・体の調和がとれた脳に発達することが期待できます。宮城県が進める『学ぶ土台づくり』に通じるものです。

また、小学校中学年以上の青少年にとっても、五感を通じて自然とふれあうことは、学校での学習活動の礎となる、興味関心や意欲を高めることにもつながり、学力向上の基盤となる力が身に付くことが期待できます。

国立花山青少年自然の家では、『幼児期から始める自然体験活動の推進』に力を入れて取り組んでいます。2年前には『リックの森』を整備しました。木のトンネルをくぐって坂道を登っていくと、少し開けた森の中に出ます。子どもたちはあるがままの自然の中で、思い思いに自分の『遊び』を創り出して、楽しそうに体を動かします。質の良い刺激が脳に伝わる時間です。

4月1日現在、宿泊団体の利用受入は停止していますが、日帰りで自然に親しんでいただくことはできます。行動が制限され、大人も子どももストレスがたまっているのではないのでしょうか？是非、家族連れでおいでください。コロナストレスの解消に、花山青少年自然の家がお役に立てれば幸いです。

国立花山青少年自然の家所長 山 中 和 之



【一本橋をわたろう】



【ツタにぶらさがって】